大著の言い分

笠井亮平 南アジア研究センター研究員 岐阜女子大学

に『モディが変えるインド』など。ア国際関係、インド・パキスタン政治。著書ア国際関係、インド・パキスタン政治。著書究科博士課程単位取得退学。専門は南アジニ〇〇九年青山学院大学国際政治経済学研

「三つ巴」の攻防を活写米国・アフガニスタン・パキスタン

5にアフガニスタンに関わってきたかりにアフガニスタンに関わってきたジャーアジア情勢を長く取材してきたジャーアジア情勢を長く取材してきたジャーアジア情勢を長く取材してきたジャーアジア情勢を長く取材してきたがは。──翻訳に関わられたきっかけは。

思いました。
思いました。
思いました。
では、
はいました。
では、
はいののでは、
はいののでは、
はいののでは、
はいでは、
はいののでは、
はいました。

います。第一に、アメリカとパキスタ笠井 本書の魅力を三つ挙げたいと思――どのような内容の本でしょうか。

もいいでしょう。コールの問題意識は

存在がこの国を左右してきたと言ってする上で欠かせない二国を織り交ぜてす。アフガニスタンは、その長い歴史す。アフガニスタンは、その長い歴史す。アフガニスタンは、その長い歴史ンという、現在のアフガン情勢を理解

シークレット・ウォーズ 上下 アメリカ、アフガニスタン、パキスタン三つ巴の諜報戦争 スティーブ・コール・著/笠井亮平・訳 白水社/2019年12月/3,800円+税(上下とも)

取材を重ねて、その動きを活写していてが、という点にあります。同時に、アカニスタンの情勢を語る時に欠かせか、という点にあります。同時に、アかに、なぜこの戦争は終わらないののに、なぜこの戦争としてアフガニアメリカが対テロ戦争としてアフガニアメリカが対テロ戦争としてアフガニ

第二に、本書は9・11以降のアフガニスタン情勢を理解する目的だけでなく、アメリカの外交政策の意思決定をく、アメリカの外交政策の意思決定をなされています。ホワイトハウスや国なされています。ホワイトハウスや国かがります。

ては、表の外交には見えてこないイン点も貴重です。アフガニスタンに関しに関わる各国の諜報活動を描いているという邦題のとおり、アフガニスタンという邦題のとおり、アフガニスタン

う。事実の検証も十分になされていま、強壇場で、面目躍如ということでしょい。このあたりは、ジャーナリストのん。このあたりは、ジャーナリストのが増場で、面目躍如ということでしょい。

た部分はどこですか。

――翻訳していて、特に面白いと思っ

す。

ジョー・バイデン、そしてジョン・ケ 統領選で民主党の候補を争っている 統領選で民主党の候補を争っている が訪問する場面ですね。いま米大 に、アメリカから上院議員三 にできる。

が夕食会の末席に座り、その場を見ててしまう。まるで読んでいる自分自身てしまう。まるで読んでいる自分自身大統領が対米批判を展開したことにバルザイ大統領との夕食会に臨んだ際、

リーとチャック・ヘーゲル。三人がカ

思います。

した。 いるような臨場感ある筆致が印象的で

るアフガニスタン人の青年と、後に帰ります。一例を挙げると、後にアメリります。一例を挙げると、後にアメリなものを感じる記述がそこかしこにあなりであり、人のつながりや縁のよう

を馳せながら読んでいくのも、一興とですが、一人一人の思いや人生に思いいることに驚き、人の縁の面白さを感いることに驚き、人の縁の面白さを感いることに驚き、人の縁の面白さを感いることに驚き、人の縁の面白さを感いることに驚き、人の縁の面白さを感いることに驚き、人の縁の面白さを感いることになが、同じアフガニスタン大統領となる青年国しアフガニスタン大統領となる青年

ぜひ手に取っていただきたいと思いまが、最後まで興味深く読める本です。盛り込みました。大部ではあります